

都市づくりの6つの戦略プラン

1 住みやすい 都市づくり	2 みどりが包む 都市づくり	3 拠点がつながる 都市づくり	4 産業を支える 都市づくり	5 災害に強い 都市づくり	6 多様な主体の連携・ 協働による都市づくり
<ul style="list-style-type: none"> 多様なライフステージに対応した住環境の整備 若い世代にとって暮らしやすい住環境整備 白井らしい景観の維持・向上 	<ul style="list-style-type: none"> みどりの保全と継承 みどりに触れる区間の整備 みどりを活かしたにぎわいづくり グリーンインフラの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点づくり 交流し支え合える場づくり 拠点、交流の場のネットワーク形成 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな産業を創出する土地利用の推進 農地（休耕地）の保全、利活用 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設の計画的な維持管理、耐震化 減災のための都市構造、土地利用の検討 防災への意識醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な情報発信（シティ・プロモーション） 産官学連携の推進 プラットフォーム（中間支援組織）の形成

【都市マスターplanにおける景観とみどりの位置づけ】

本計画策定にあたっては①と②がベースとなる。

- 白井らしい景観の向上が白井のアイデンティティとなり、市民の愛着や誇りを醸成し、「住みやすい」「今後も住み続けたい」と思うきっかけとなる。
- そこで、市民にとっての「**住みやすさ**」を軸として捉え、普段、生活している中で、落ち着きのある街並みや身近に存在している豊富なみどり、街への愛着が持てる歴史や文化を保全・活用していく必要がある。
- 今後、少子高齢化が進み、生産年齢人口が減少していく中で、持続可能な行政運営を行うためには、現状に留まることなく、白井市の財産である景観とみどりとの調和を図りながら発展に向けた取組を行い、市民サービスの基盤となる財源をしっかりと確保し、**住みやすい都市づくりの実現**に向け取り組む必要がある。
- また、白井では自然的な環境に代表される「**みどり**」が景観の重要なウエイトを占めており、そのことにより白井らしい景観を形成している。白井らしい景観の向上を図り、住みやすい街を実現していくためには、市内の「みどり」を保全・活用していくことが特に重要である。
- そのため、本計画では、都市マスターplan戦略プラン②「**みどりが包む都市づくり**」も踏まえながら、「**住みやすい都市づくり**」を軸として、**景観とみどりに関する具体的な施策・取組を整理する**。

【計画を推進するにあたり必要な視点(基本理念策定にあたる前提条件)】

- 計画の推進にあたっては、今後人口減少が見込まれることも踏まえ、行政だけでなく、市民、事業者、活動団体など様々な担い手が一緒に取り組んでいくことが重要である。
- 白井市の財産である景観とみどりを継承していくためには、市民や事業者などの意識醸成や保全活動の啓発なども取り組む必要がある。

【基本理念策定の考え方】

- 現在の白井市の財産である魅力的な地域資源をまもり・つくり・そだて、次世代へと継承していく。
- 白井市の発展に向けた開発・更新を行う際には、地域資源を活かしながら、うるおいある景観・みどりを創出していく。
- 魅力的な地域資源を次世代へ継承していくためには、市内の多様な主体との連携・協働が不可欠である。
- 白井らしさを形成する魅力的な地域資源の継承と、さらなる魅力の向上に向けた活用を図り、もっと豊かで笑顔あふれる、住みやすい都市を実現する。

【基本理念】 魅力的な地域資源をみんなでつなぐ もっと豊かに笑顔あふれるしろい

【基本理念】 魅力的な地域資源をみんなでつなぐ もっと豊かに笑顔あふれるしろい

基本理念の実現に向けて、5つの基本方針を設定 【基本方針】

1	2	3	4	5
豊かな生活環境をもたらす 景観とみどりを形成する	生活に身近で豊かな 自然環境を保全・活用する	白井固有の歴史・文化・農の 資源を継承する	地域資源を活かした うるおいある商工業地の 景観とみどりを創出する	景観やみどりづくりに取り組む 担い手を育成し つなぎ手を活用する

基本方針策定にあたっての考え方

【生活環境】 <ul style="list-style-type: none">千葉ニュータウン事業により計画的に整備されてきた住宅地は、統一感のある街並みと、公園や緑道など豊かなみどりが融合し、白井市の大きな財産となっている。在来集落地区も周辺にはみどりが多くある等、市民が生活するうえで心のゆとりが持てる環境が保たれている。	【自然環境】 <ul style="list-style-type: none">市内には河川・樹林地・谷津を代表として、市民にとって身近な里地里山などの豊かな自然環境がある。それらの自然環境は、豊かな生態系や景観を形成しているだけでなく、防災やコミュニティ形成など、多様な機能を有している。	【歴史・文化・農の資源】 <ul style="list-style-type: none">木下街道等の旧道や野馬土手等の歴史資源、寺院・神社や地域の民俗文化などの文化資源、市の主力産業である梨園を中心とする農地などは、市のアイデンティティにもつながる白井固有の資源として誇るべきものである。	【商業・工業環境】 <ul style="list-style-type: none">既存の商工業地の周辺には、統一感のある街並みや豊かな自然環境、歴史・文化・農の資源が近接している。新たに開発が想定される地域の中には、雨水涵養機能の高い緑地や豊かな生態系が育まれている緑地等が存在している。今ある地域資源を活かしながら、緩衝緑地の整備や敷地の緑化等に取り組む。魅力的な地域資源の保全・形成に貢献する事業者による開発を推進する。	【連携・協働】 <ul style="list-style-type: none">白井市は地域活動が活発であり、景観やみどりづくりに取り組む多様な担い手が存在しており、今後も活発に取り組める担い手を育成する必要がある。白井市の財産である景観とみどりの地域資源を保全・継承・活用するためには、市民・事業者・行政等の多様な主体が一体的に取り組む必要がある。多様な主体の連携・協働を促すつなぎ手の形成を推進する。
→生活環境に係る景観とみどりを充実させていく。	→豊かな自然環境を今後も保全・活用していく。	→白井のアイデンティティにつながる資源を保全し、継承していく。	→地域資源を活かしながらうるおいのある商業・工業環境を創出する。	→景観・みどりの維持・向上に向けてみんなで連携・協働して取り組む。